

現代青年のパーソナリティと対人関係様式に関する研究

－自己意識と社会的スキル・「個－関係」葛藤の関連から－

小 織 隆

キーワード：青年期・対人関係・自己意識・社会的スキル

－要旨－

青年期の対人関係については、アイデンティティ形成や心理的安定、社会的適応などの側面に多大な影響があることが示されている。一方で、現代の青年は、対人関係を深い関係を避けて表面的にとどめ、一見希薄化しているかのように見える。しかし、実際には互いに深く親密な関係を求め合い、他者とは違う自己を把握したいという思いがある。そこで、青年期の中期から後期にあたる大学生を対象として、自己意識、社会的スキル、「ヤマアラシのジレンマ」のような自己と他者との関係の関連性についての検討を行う。本研究は、現代青年のパーソナリティと対人関係様式との関連を明らかにすることを目的とする。具体的には、自己意識の指向を、社会的スキルの保持の程度、「個」あるいは「関係」を重んじる傾向との中核として位置づけ、それらの関連性を検討することで、主目的の解明を行う。

方法として、大学生（計 208 名、平均年齢 20.1 歳）を対象として、自己意識尺度、社会的スキル尺度、「個」－「関係」葛藤尺度からなる質問紙調査を実施した。

本研究では、現代青年のパーソナリティと対人関係様式の実際を明らかにするために、自己意識の指向、社会的スキルの保持の程度、「個」と「関係」を重んじる傾向と、それらの関連性を解明してきた。それによって、これまでに言われてきた青年期のあり方、青年像と比較して、変化していると思われる部分と変化していない部分があることがわかった。先人たちの指摘の通り、現代の青年は対人関係において他者からの評価に注意を払い、対人関係において互いに踏み込みすぎないように配慮したり、表面的でも良いから良好な関係を維持しようとしていたりしている。その対人関係のあり方が、現代青年の姿であり、常態化しているものである。そのために、青年たちはジレンマを抱え、友人との深いつながりを求めながらも、傷つけ合うことのないように、独自のスキルをもっている。もはや、希薄化した対人関係というよりは、それが当たり前になっているのである。